

台風14号が遠ざかり、東山の森には快晴の秋の空が広がっていました。あまり天候に恵まれていない今年の自然観察会ですが、今回はこれ以上はないというほどの好天で、大勢の参加者が集まりました。

持ち込み観察項目：灯火採集の甲虫標本、ボケの実、青森のクルミの実、銀杏、バッタの糞、アキアカネ

7月にケヤキの下の**ウンモンズズメの幼虫**の糞を観察しましたが、今回は別のケヤキの樹上の幼虫の姿を確認することができました。クスノキの下では**アオスジアゲハの終齢幼虫**が歩いていました。体が透き通るような色になっていました。子どもたちが代わるがわる幼虫を触るのを見て大人は幼虫が弱ってしまわないかと心配していました。参加者の女の子が見せてくれた虫網には**マミジロハエトリ**のオスが入っていました。



炭焼き広場のシンジュの木の周辺ではカマキリの仲間が次々と見つかりました。オオカマキリやハラビロカマキリのほかに**ムネアカハラビロカマキリ**もいました。外来種のムネアカハラビロカマキリについてはこの自然観察会で過去に何度か紹介されていますが、今回もその来歴や生態に触れ、在来種の存続が外来種によって脅かされていることが説明されました。この日は**褐色型のハラビロカマキリ**も見つかりました。



炭焼き広場ではそのほかに**シンジュキノカワガの繭**を観察しました。シンジュキノカワガの繭の中の蛹は、外から刺激を与えると動いて音を出します。マラカス音と表現され、聞くことができた参加者もいました。周辺では**ツチイナゴ**や**コバネイナゴ**がたくさん捕らえられ、胸の部分にある突起がイナゴ類の特徴であると紹介されました。ヨシ原では**ヒナバッタ**が**ジョロウグモの網**に飛び込み、早速クモに食べられていました。



ジュズダマの実が熟していました。白い実と黒い実があり、一人の女性の参加者の声かけでその両方を同時に水に落としてみました。黒いものは沈み白いものは流されて行きます。実を割ってみると**白いものは簡単に壊れ中は空っぽ**でしたが、黒いものはとても固く、歯で噛んでもなかなか壊れませんでした。



毎年10月に観察しているミゾソバの花がこの日もたくさん咲いていました。稲刈りを控えた田んぼのイネは美しい黄金色の穂を垂れていました。水の抜かれた地面の中からアメリカザリガニが出て来て、落ちたイネの穂を食べているのが見られました。大きなカキノキにはハシボソガラスが来ていて、実をつついていました。



ミゾソバ



田んぼのアメリカザリガニ



カキノキの実とハシボソガラス

ヘクソカズラには実がついていました。つぶれた実や葉の断面を嗅ぐと強烈な匂いで、嗅いだ子どもが顔をしかめていました。一人の参加者からニセアカシアの根元の草本類があまり育たず元気がない様子が指摘され、その原因はニセアカシアから出るアレロパシーという植物の生長を阻害する化学物質であると説明されました。オッタチカタバミの名前の由来を尋ねたところ、実のつき方を見ると分かる、と答えた人がありました。中に種が詰まった蒴果は上向きに立ち上がっていました。ヤマノイモの茎に大きな幼虫が見つかり、ある参加者がグーグルの画像検索でキイロスズメと突き止めました。足元の花を咲かせたチヂミザサは穂の部分がベタベタしてズボンにくっつく厄介者です。チヂミザサの葉の手ざわりはフワフワで、その表面には多数の毛が生えていました。



ヘクソカズラの実



ニセアカシアのアレロパシー効果



オッタチカタバミの蒴果



キイロスズメの幼虫



チヂミザサの穂



チヂミザサの葉

ウマノスズクサについてのジャコウアゲハの幼虫を見に行きました。ここで昆虫や植物が日照時間の変化によって季節の移り変わりを感じているという話を聞きました。トウチク林の近くのミツバアケビの実は少し力を入れると簡単に割れ目ができて中身が顔を出しました。帰り道でカラタチの実をもいで割ってみると柑橘系のさわやかな香りが広がりました。恐る恐る食べてみると酸っぱさにクセがなく、みんな意外に美味しいと言っていました。



ジャコウアゲハの幼虫



ミツバアケビの実



カラタチの実

この日の最後に観察会に参加する子どもたちが採集する生きものについて考える時間が設けられました。自然観察会という名の通り、虫を捕るための会ではなく今そこにある自然の姿をみんなで見て、新しい発見をしたり共感したりすることを大切にしたいという趣旨のものでした。子どもたちの心に届いたでしょうか。

平和公園での観察項目(観察順)： ウンモンズズメの糞、ウンモンズズメの幼虫、アキアカネの卵、アオスジアゲハの幼虫、ムクゲ、ヒガンバナ、イセノナミマイマイ、センダン、マミジロハエトリ、シンジュキノカワガの繭、オオカマキリ、ハラビロカマキリ、ムネアカハラビロカマキリ、ツチイナゴ、コバナイナゴ、オオシオカラトンボのヤゴ、ウバメガシについてのガの幼虫?の巣、ジョロウグモ、ジョロウグモに捕らえられたツマグロオオヨコバイ、ジョロウグモに捕らえられたヒナバタ、ナガコガネグモ、ミゾソバ、ジュズダマ、ノコンギク、カナヘビ、シラタマホシクサ、サワギキョウ、アブの仲間、イチモンジセセリ、アメリカザリガニ、イネ、カキノキ、ハシボソガラス、ニセアカシア、ヘクソカズラの実、ヒメカメノコテントウ、オッタチカタバミ、キイロスズメの幼虫、ウラギンシジミ、チヂミザサ、ジャコウアゲハの幼虫、ミツバアケビの実、カラタチの実、ハゴロモの幼虫、カゼクサ